

## 1 - 2 函館付近の群発地震活動 (IV)

### On the Earthquake Swarm near Hakodate, Southern Hokkaido(IV)

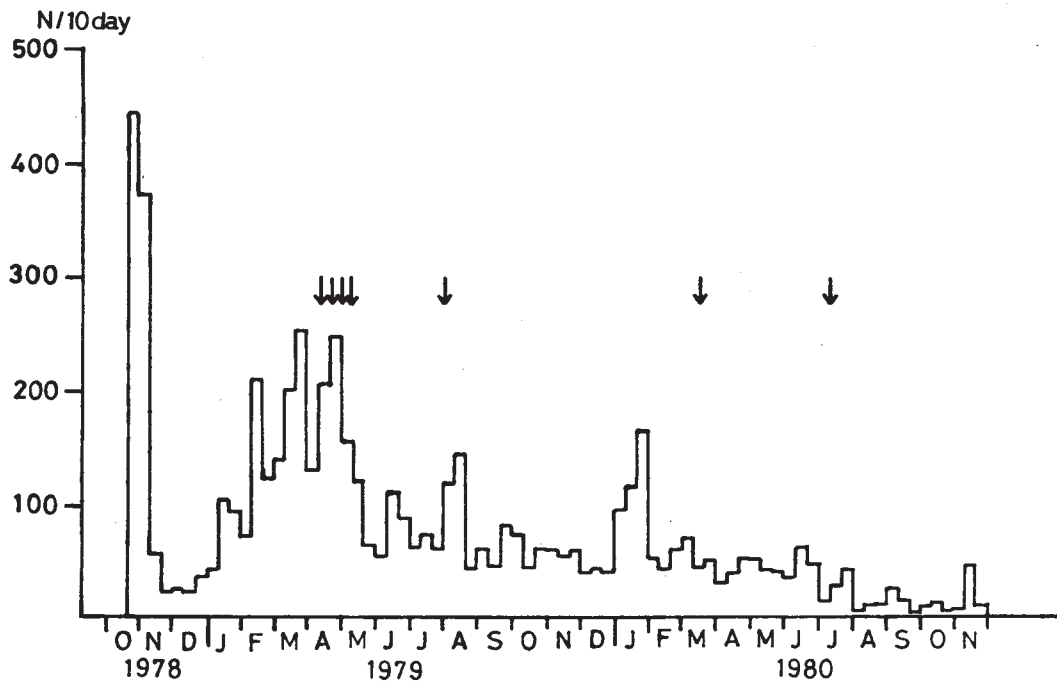
北海道大学理学部  
Faculty of Science, Hokkaido University

全期間の活動状況をあらためて第1図に示すが、2年以上にわたった活動もようやく終りに近づいてきたといえるであろう。函館で震度Ⅲの地震が発生した前後の地震活動の様子を調べると、活動の最盛期には「群発型」であったのが、「本震-余震」型になり、余震の数も次第に少なくなって、1980年7月の震度Ⅲの地震のときにはその前後の地震活動に何の変化も認められなくなった(第2図)。活動様式のこのような変化も全体の活動が終りに近づいていることを示すものかも知れない。

しかし、1980年11月25日には08時55分から約3分の間にM3.0, 2.5, 3.0の地震が続き、その後11時30分にもM3.2の地震があり、結局この日一日でM1.0以上の地震26回を数え、函館では局所的には10回近くの地震を体感したところもあるようで、群発地震活動活発化かと騒ぎになることがあった。結果的にはこの活動は一日だけで終り、全体の活動がこのことにより活発化するような傾向はこれまでのところ認められない。

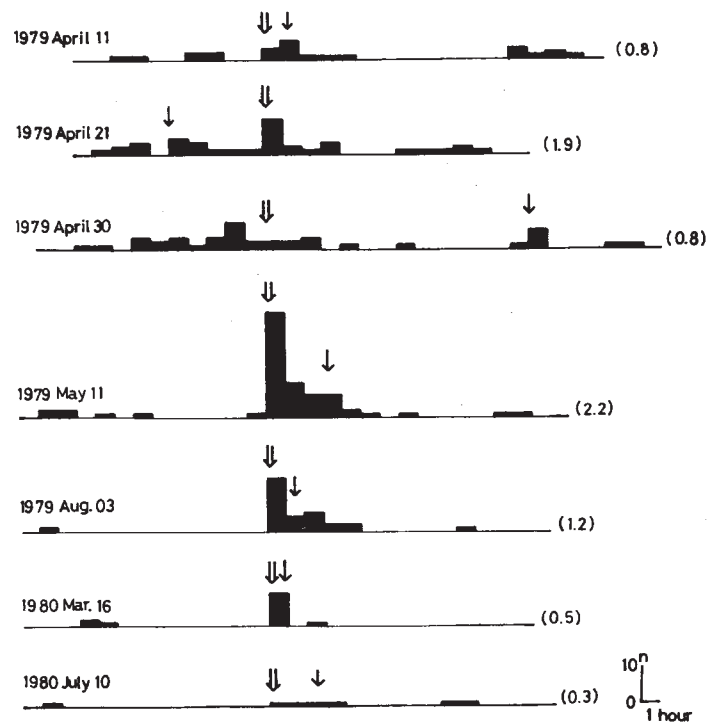
今後もこのような一時的な活動の変化を繰返しながら、全体としては終息に向ってゆくものと思われる。

(本谷義信)



第 1 図 函館群発地震の発生頻度。恵山観測点 ( ESH ) で観測された  $M \geq 1.0$  の地震の 10 日毎の回数。矢印は函館で震度Ⅲの地震の発生を示す。

Fig. 1 Frequency of earthquakes with  $M \geq 1.0$  every ten days. Arrow shows occurrence of event with seismic intensity III at Hakodate.



第 2 図 函館で震度Ⅲの地震 ( ↓↓ ) の前後の地震活動様式。↓は次に大きな地震。( ) の数字は平均地震活動度, event/hour。

Fig. 2 Seismic activity before and after the largest event ( ↓↓ ). ↓ is the next largest event. Numeral in ( ) shows average activity in event/hour.